

One Purpose

同志社大学通信
FOR BETTER COMMUNICATION

138

2004
April

DOSHISHA UNIVERSITY



特集● 同志社ローム記念館プロジェクトの今を追う

同志社人訪問● KTC (京都機械工具株式会社)
代表取締役社長 宇城邦英さんに聞く

『ONE PURPOSE』は学生・卒業生のみなさんと大学とのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。今号から構成を見直し、新連載をスタートさせたほか、誌面を「大学の活動」「在学生・教員の活躍」「卒業生の活躍」にブロック分けし、情報の整理を行いました。新しくなった『ONE PURPOSE』を、今後どのようによろしくお願いいたします。また、ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。

COVER STORY

表紙の情景
[体育会自動車部]



アスファルトが敷かれた練習場に足を踏み入ると、タイヤの焦げるにおいと白煙を上げて運転練習をする車の姿が飛び込んでくる。西端には2階建ての立派なビッドがあり、手をまっ黒にして車の整備を行う姿がある。

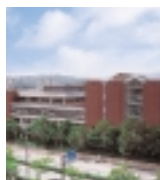
時には危険が伴う運転の練習は常に緊迫した空気が漂う。だが、一旦車を降りると車が好きで、なごやかで楽しいムードに一転。ビッドでの整備は真剣ながらも楽しい会話や冗談が交わされる、気兼ねのない時間だ。

同部ではドライバーや整備士というように担当を分けて、女性を含めた全員が整備と運転の両方をこなす。車の構造を理解する事で、よりレベルの高い運転ができるからだ。さらに他大学の自動車部とは違い一年次生から学内練習場で運転の練習ができるということもあり、戦績は優秀だ。「全日本学生ジムカーナ選手権大会男子団体部門」「全日本学生自動車運転競技大会男子団体部門」をはじめとする様々な大会で優勝。全国でもトップレベルの自動車部だ。

現在は全関西学生ジムカーナ選手権大会をめざし、練習と整備の日々が続く。

大学の活動

特集



同志社ローム記念館 プロジェクトの今を追う 2

同志社の研究は今 一神教学際研究センター 7

スポーツ政策シンポジウム 「日本の野球を考える」 9

在学生・教員の活躍

CAMPUS NEWS

川口順子外相が今出川キャンパスで講義／産業関係学専攻学生だけのサッカーサークル発足！初めての「法科大学院」入試を実施／卒業生の新刊図書／春学期奨学生募集と延納分納／寒梅館のレストラン2店がオープン！／本学教員の月刊／トピックス／成績評価にGPA制度を導入します／新任教員紹介／退職教員紹介

10

OP COMMENTARY

角井 正幸 経済学部専任講師 思いやりの文化

17

卒業生の活躍

INTERVIEW ～同志社人訪問～



KTC (京都機械工具株式会社) 代表取締役社長
宇城邦英さんに聞く

18

卒業生通信

鵜飼 裕朗さん 鵜飼商店店主
深尾多恵子さん JAZZシンガー

21

MY JOB, MY LIFE ～シリーズ私と「仕事」～

・小田原 加奈さん(1988年 経済学部卒業)
・島田 剛さん(1992年 経済学部卒業)

23

ANNOUNCEMENT

25

MY PURPOSE

小型ヨットで太平洋単独横断 友田享助さん(文学部社会科学部新聞学専攻4年次生)

27

同志社ローム記念館

プロジェクトの今を追う

昨年9月にオープンした同志社ローム記念館。同館では今、さまざまなプロジェクトが進行している。プロジェクトの種類は3つ。企業提案型の「誘致プロジェクト」。学生・教職員提案型の「学生公募プロジェクト」。これらプロジェクト活動全体の企画・運営を行う「コアプロジェクト」。ここでは、その中からいくつかを紹介する。

多様なプロジェクトを支えるしくみづくりに取り組む

同志社ローム記念館では、メディアテクノロジーを活用したプロジェクトを通して有能な人材の育成をめざしています。プロジェクトは産官学、そして地域連携のもとに行われ、本学の学生だけでなく、同志社女子大学や同志社国際中学校・高等学校をはじめとした学校法人同志社内のすべての生徒・学生・教職員が参加できるのが特徴です。学内外のさまざまな人とかわり、お互いに触発しあう。そして新たなものを生み出していく。このような場は今までありませんでした。いってみれば、実験場です。同館は、従来

の情報施設のように決まったかたちがあるわけではありません。これまでの基礎積み上げ型の教育では、これからの時代に対応できる人材を育成できないと考えて、同館では今までにない新たな展開を模索しているわけです。学生の柔軟な発想を生かしていく。そのサポートをしていきたいと私たちは思っています。運営組織も仕組みもがんにがらめにするのではなく、できるだけシンプルで柔軟なものをめざしています。

現在、誘致プロジェクト8件、学生公募プロジェクト3件が活動を開始しています。公募プロジェクトの選考では、学生たちが企画や予算を立て、プレゼンテーションを行います。今まで受け身の教育を受けてきた学生たちにはそれがなかなか難しいようです。アドバイスをしても、もう一度トライしてはどうかと差し戻した案件もあります。途

中で行き詰まるプロジェクトも出てくるかもしれませんが。しかしそれでもいいと思っています。もちろん結果を出すことは大切ですが、そこに至るプロセスから学ぶことも多い。問題にぶつかり、考え、動いていく。このことは、同志社ローム記念館を運営していく際にとくに大切にしている点です。そうして実績を少しずつ積み上げて、誘致や学生公募プロジェクトをより活性化させていく。公募プロジェクトに関しては、企業や地域からの資金援助を得て活動していくことが目標です。

学生の皆さんには、メディアテクノロジーを駆使し、社会とコミュニケーションを取りながら、私たちが考えているよりもっと多様なプロジェクトを立ち上げてくれることを期待しています。



田附 俊一

【文学部教授】

同志社ローム記念館
プロジェクトWG委員

誘致 プロジェクト

「エンターテイナー・スイーツ」

プロジェクト参加企業担当者が語る

学生のアイデアを生かした 菓子の商品化に挑む

このプロジェクトは当初、菓子のパッケージにつけるイメージキャラクターをデジタルコンテンツとして制作することを中心に進めていく予定でした。しかし、社内で話し合った結果、学生メンバーの柔軟な考えをもつと生かそうと、企画から参加してもらっています。

活動ははじまったばかりですが、3チームに分かれて活動して行く予定です。各チームにマテリアルやパッケージ担当の社員が3人ずつつく形で商品企画を練っている段階です。学生メンバーは女性が多く男性は4人のみ。同志社女子大学の学生が最も多いです。



プロジェクト責任者の川田隆雄同志社女子大学学芸学部助教授とメンバーの皆さん

ね。同志社国際高等学校の生徒も6人参加していてパラフェイに富んだ構成になっています。

菓子商品づくりには企画が重要で、ここで商品の良しあしが決まるといってもいいほどです。ですから同プロジェクトでもこの部分にかなりの時間を割いています。学生メンバーにどんなアイデアを出してもらい、社員がアドバイスしながらそれを膨らませていく。そして企画が形になった段階で、同志社ロム記念館の劇場空間を使ってプレゼンテーションを行う予定です。これは4月末をめざしています。その後、ネーミングや実際の菓子の試作、パッケージデザインの制作などを行っていきます。この段階ではCMコンテンツの制作も行いう予定で、デジタルコンテンツの制作能力を幅広く習得します。最終的には、各チームで一種類ずつ商品化できればと考えています。

今回のプロジェクトは、企業にとっても新しい試みではうきうきして手探りの状態です。臨機応変にやっていきたいと思いますが、同時に結果も出していかなくてはなりません。学生メンバーには私たちの言動が厳しく映る時もあるでしょうが、あまり構えずどんどん意見を出してほしいですね。

今、菓子市場は年々縮小しています。各メ

科学と芸術を融合させて 新しい教育コンテンツを制作

「メディア教育コンテンツ開発とTV番組作成」

日本原子力研究所、
(株)キネット、(株)ケイ・ジー・ティー、
クボタコンプス(株)、
けいはんな文化学術協会

科学と芸術の融合の視点からメディア教育コンテンツを制作。優秀作品は、実際のテレビ放送による映像発信を行う。プロジェクト活動を通して、クリエイターや科学研究者の育成をはかる。

キャンパスライフを 新ツールでサポート

「こんなん欲しかったん キャンパスツール」

ファイルメーカー(株)

大学生の充実したキャンパスライフをアシストするツールとして、データベースファイルを作成。完成したキャンパスツールは、学内外での発表を行うだけでなく、多くの学生にも体験してもらえるようにファイルメーカー社のホームページから無料ダウンロードで配布する。

新しい情報通信の かたちをつくる

「PACTを利用した 応用ソフトウェアの開発」

(株)キュービックス、(株)NTTドコモ関西、
(株)プランニング・ロケッツ

PACTとは、Personal Area Communication Toolの略語。点に在るパーソナルエリアを結合し、お互いの情報交換を可能にする。同プロジェクトでは、PACTに関連したソフトウェアを製作し、PACTの企画やデザインなども行う。プログラミング言語や無線データ通信制御の流れを習得でき、携帯電話端末の独自活用も可能に。

誘致プロジェクトの概要

学生公募 プロジェクト

「同志社大学レスキューロボット
プロジェクト」

ロボット製作の魅力を 広く伝えたい

私たちは、このプロジェクトでレスキューロボットの製作に取り組んでいます。このロボットは地震などの災害時の人命救助やがれき撤去を目的としています。レスキューロボット製作の動機は、レスキュー活動に貢献し

たいという気持ちに加えて、より多くの学生にロボット製作そのものに関心をもってもらいたいという思いがあるからです。興味のある方がいれば文科系・理科系を問わず、一緒にプロジェクトを進めていきたいですね。現在、メン

バーは15人。全員が同志社大学の学生で、その多くが工学部で機械研究会のロボット製作を行ってきました。とはいえ、学生だけではなく、責任者である河岡司工学部教授のアドバイザーを受けながら、毎年神戸で開かれているレスキューロボットコンテストに出場することを短期的な目標に掲げました。現在、遠隔操縦型のレスキューロボットを



藤井 元太郎さん

UHA味覚糖株式会社
開発セクション・第三カテゴリ・コンセプター
同志社大学記念館誘致プロジェクト「エンターテイナー・スイーツ」学生メンバー
の牽引役を担っていただいている。

「カー」とも毎年多くの新商品を出していますが、そのほとんどが既存品の焼き直しです。それが市場の活性化につながらない要因のひとつになっています。現場で働く私たちは固定観念に縛られ、なかなか新しいことができないのが現状です。菓子は1000種類開発して3つヒットすればいいという世界です。ですから学生の皆さんには自由な発想で考えてほしい。そして私たちと一緒にお客様に喜んでもらえる商品を開発できればと思っています。

CGアニメを使って デジタル映像文化の 発展をめざす

「D4」
(株)ドーガ

個人でCGアニメを使って映像制作を行い、発信するような新しいデジタル映像文化の発展が目的。CGアニメ技術の習得と作品制作、CGアニメ上映会・教室などの運営や参加、CGアニメ制作環境の改善の取り組みなどを行う予定。企業、官庁、大学とも積極的に交流していく。

次世代の 教育コンテンツを開発

「e-learning教材の開発と
インフォテーブルの基礎研究」
萬世電機(株)

教材作成者、学習者双方の視点からeラーニング向け教育コンテンツの研究開発を行う。また、デジタルメディア教材の新しい開発媒体として、インフォテーブルの基礎研究とともに普及に向けてのマーケティングも行う。プロジェクト活動を通してeラーニング関連のプロデューサーなどの人材育成もはかる。

マイクロソフト製品を 生かして活動

「学生デベロッパーコミュニティの
開設・運営(仮称)」

マイクロソフト(株)、デジット(株)

マイクロソフト製品などに関する学内外からの問い合わせに答える学生メンバーを構成。また、Officeテンプレート作成、Visual Studioのプログラミングガイドの作成に取り組み、最終成果として公表する。

映像や音声データで 運動時の変化を探索

「スポーツ学習支援
コンテンツプロジェクト」

(株)日立製作所

小学生から大学生までのスポーツ競技や運動を継続的に映像や音声として記録。映像や音声データで過程を詳細に追うことにより、スポーツ競技や運動時の変容の原因を探る。解析されたデータは、成果として公表する。



個々の機構ができ、次に設計図を書き上げ、

製作中です。ロボットづくりは大きく分けると、①個々の機構づくり②設計図づくり③全体の製作という順序で行われます。同コンテストは1/8サイズの模擬フィールドで行われ、大型がれきの除去、人の救出と運搬が重要なポイントとなります。ミニチュアのがれきやダミー人形を作り、アームなど個々の機構の動きを実験していますがなかなか難しい。例えば救助用ロボットには早さとともに、被災者をやさしく、安全に救出することが求められます。そこで人の腕のように機械のアームを動かそうとするのですが、思うように動かない。力を入れ過ぎたり、逆にうまく持ち上げられなかったり。試行錯誤の連続です。小さなキターも無数に必要になってきます。そんな時、人の動きは複雑なんだなと実感しますね。この機構を考える部分

工場作業班、電子回路製作班、プログラミング班、Web班に分かれて作業します。各機構の動きをコントロールする制御システムやレスキュー活動時のさまざまな状況に対応できるソフトウェアの開発に、同志社ローム記念館の設備は非常に有効です。同館には私たち専用のプロジェクトルームがあり、ここでミーティングやコンピュータを使った作業を行っています。自由に使えるのがうれしいですね。

製作するロボットは、がれき除去用や人命救助用など3台。でも中身の機構に合わせ、外形も変わってきますから、どんなロボットができ上がるかは私たちもまだわからない状態です。まずコンテストに出場できるレベルまでもっていくこと。やはりこれが当面の目標です。出場すれば他大学とも交流できますし、私たちの活動をより多くの人に知ってもらえると考えています。

同プロジェクトが動き始めて2カ月あまり。限られた予算でどうやり繰りするかの実験では成功よりも失敗の繰り返し。でもそういう経験の積み重ねが大事だと考えています。週に3日の限られた活動のなかで、何とか成果を出して1年とはいわず、2年3年と持続的にプロジェクトを発展させていきたいですね。



村田 真依子さん
プロジェクトリーダー
工学部知識工学科2年次生

環境問題に注目し、 エコライフの普及を促す

「エコライフプロジェクト」

現在、地球規模で顕在化している環境問題を具体的に認識し、抑止・改善へ向けての働きかけをすべく、インターネットとマルチメディアを活用した個人レベルでの研究・教育・実践の仕組みを開発する。環境問題全般およびエコライフについての知識の習得に重点を置き、HPを通じてコンテンツや教材の配信を行う。

学生と地域を 連携させて活性化

「学生と地域の連携に基づく コ・エボリューション」

Webを用いて学生・市民・行政のニーズとシーズをマッチングさせ、社会とりわけ地域社会に役立つユニークなデータベース・ITシステムを開発。学生・市民・行政の共生および共進化（コ・エボリューション）の関係を作り上げることを目的としている。

同志社ローム記念館の 活性化を担う

長谷●ローム記念館の学生コアスタッフは「コアプロジェクト」の中に設置された学生の自主的プロジェクトです。

主な活動は、運営委員会から依頼されて行う館内案内や機器操作などと学生プロジェクトとしてのさまざまな企画・運営があります。メンバーの学生は現在26人。プロジェクト運営委員・WG委員の先生方の下で、学生コアスタッフとして5つのチームに分かれて活動しています。学生コアスタッフ活動のスタートにあたり、特に活発に動いているのが広報・プロジェクト間調整チームです。同志社女子大学の学生も6人参加しています。これについては伊藤さんに紹介してもらいましょう。

伊藤●同志社ローム記念館は動き始めたばかりです。まだよくわからないという学生も多い。特にプロジェクトがそうです。そこで、イベント情報などとともに、誘致・公募の各プロジェクトを詳しく紹介する広報誌「I P P O (Interaction, People, Projects, Open-mind)」を発行する予定です。仕様はA4サイズの両面版。今その創刊号の準備に追われています。

長谷●伊藤さんのチームでは、各プロジェクトごとに担当者を置いているんですね。

伊藤●そうです。この体制によ

てきめ細かなスケジュールができます。それとにも定期的に情報を収集してI P P Oや各プロジェクト間の情報交換などに役立てます。

村上●I P P Oは同志社ローム記念館の活動を知らせるいいツールになるでしょう。そしてプロジェクトを行う側にとってもいい意味でのプレッシャーになると思います。各プロジェクトには年2回ほど報告が義務づけられています。それ以外にも、活動経過が定期的に公の場に出ることになるわけですから。

長谷●プロジェクト活動は、新規に立ち上げる予定の学生コアプロジェクトのWebサイトでも紹介します。このWebサイトを管理するのがシステムチームです。同チームでは各プロジェクトの技術的支援も行える体制を整えます。

村上●話は変わりますが、僕はもともと劇場空間でのイベントや大型マルチビジョンを使った映像コンテンツの放映をすべきたと思います。長谷●それなら館外からでも見えるわけですし、足を止めさせて呼び込む、人通りの多い正門横という恵まれた立地条件をいかに生かしていくか。これも重要な課題です。その意味ではマルチビジョンチームと渉外・企画チームのみなさんががんばってほしいですね。

伊藤●まず興味をもってもらう。やっぱりその部分は大事ですね。

村上●4月には「同志社ローム記念館 新学期

フェア(仮)」を開催する予定にしています。さまざまなイベントやコンテンツ放映を行うことで、より多くの新入学生に興味をもってもらいたいですね。

長谷●この新学期フェアは、私達にとって初の企画です。試行錯誤しながら準備をすすめている状況です。コアプロジェクトの目的には、スタッフが成長することも含まれています。失敗しないことにしたことはありませんが、失敗した時にしか学べないこともあります。同志社ローム記念館を活性化するための活動は積極的に行っているいろいろな経験を積み重ねていきたいですね。



伊藤 冬子さん
広報・プロジェクト間調整
チームリーダー
工学部知識工学科2年次生



村上 雅英さん
プロジェクトサプリーダー
工学部電気工学専攻
博士課程(前期課程)
1年次生



長谷 芳樹さん
プロジェクトリーダー
工学部電気工学専攻
博士課程(後期課程)
1年次生

同志社の研究は今

ユダヤ・キリスト教文明と イスラーム文明の 共存をめざす

一神教学際研究センター

Profile



森 孝一

【神学部教授】
一神教学際研究センター長
神学部長

昨年度「21世紀COEプログラム」として本学の2つの研究プログラムが採択された。そのひとつが、「一神教の学際的研究―文明の共存と安全保障の視点から―」。同研究は現在、「一神教学際研究センター」を拠点に活発な活動を展開している。センター長の森孝一神学部教授にお話を伺った。

一神教学際研究センターでは、3つの一神教とその文明について学際的な研究を行っています。3つの一神教とは、ユダヤ教、キリスト教、そしてイスラーム。この3宗教のかかわりは深く、ユダヤ教からキリスト教が誕生し、その2宗教を背景にしてイスラームが生まれました。ユダヤ教のヘブライ語聖書は、キリスト教の旧約聖書にあたりますし、またユダヤ教とキリスト教の中心人物であるアブラハム、モーセ、イエスなどは、ムハンマドとともにイスラームの重要な預言者です。いってみれば兄弟の関係ですね。しかし、歴史上、対立と抗争を繰り返してきました。今もパレスチナ問題でユダヤ教とイスラームが対立し、9・11同時多発テロとイラク戦争においては、キリスト教を中心とする「宗教国家アメリカ」とイスラーム世界が対立関係にあります。今日の世界の緊急の課題である文明の共存と安全保障。この実現をめざすスベン

ヤリストを養成することが同センターの目的です。

同センターの中核となる神学研究科では、昨年度から3人のイスラーム研究者を専任教員として採用し、神学部も含めて30ほどのイスラーム関係科目を設置しています。また、「一神教学際研究コース」の2005年度の開設をめざして準備を進めています。だからといって同志社の伝統的なキリスト教の教育・研究の時間を減らすわけではありません。これまで築いてきたものに、新たにイスラーム関連分野を加えてより幅広い視点で取り組んでいきます。欧米のキリスト教神学研究機関においても、これほどの規模でイスラーム研究を行っているところはおそらくないでしょう。さらに同センターでは、一神教文明をトータルにとらえるために、地域研究、国際関係、安全保障、科学史など、さまざまな分野を専門とする本学教員や学外の研究者がスタフとして活動しています。

海外からもさまざまな方を招き、これまで「イラク戦争の深層を探る」「ユダヤ人・キリスト者・ムスリム―対話と対決における一神教諸宗教―といったテーマで講演会やワークショップを開いてきました。その一連の活動のなかで実感したのが、それぞれの一神教は必

21世紀COEプログラムとは？

「21世紀COE(Center of Excellence=卓越した拠点)プログラム」は、日本の大学に世界最高水準の研究拠点を学問分野ごとに作り、創造的な人材育成と国際競争力のある大学づくりのために、文部科学省が重点的に財政支援を行う事業です。

ずしも一枚岩ではないということ。例えばキリスト教の代表者同士が、時には正しい戦いがあるとする「正義論」をめぐる対立する。戦争か平和的解決か。緊迫した議論が展開されます。イスラームにも両方の意見があります。私たちは3つの一神教とその世界を理解し、そこから共存を実現し、より平和に寄与するものを探していかなければなりません。そしてお互いに認め合っていく。そういう取り組みが必要です。よく日本では一神教はもう有効でなく、日本的な多神教がこれからの世界に必要なという議論があります。しかし、3つの一神教を信じる人々に、これからは多神教を信じないといっても容易なことではありません。世界人口の5割以上を占める一神教の世界の文明や人々は、それぞれの一神教を基盤として形成されてきたわけですから。私は宗教を「お母さんのようなもの」と言っています。実のお母さんは世界でただひとり。変えることはできません。だからこそ共存ということではできません。だからこそ共存ということでは模索していく必要があります。3つの一神教の歴史的、地理的なしからみから自由な外部に位置する日本だからできる研究なのです。



同センターでは、今年2つの研究会を新たに立ち上げました。ひとつが「二神教の再考と文明の対話」。もうひとつが「アメリカのグローバル戦略と一神教世界」です。後者はアメリカのグローバル戦略に欠かさない安全保障を具体的に研究するために、防衛大学の研究者やアメリカの軍事戦略を研究する自衛隊の方にも参加してもらっています。より多角的に分析して、それぞれの一神教の視点から批判的に議論を進めていきます。

また研究成果を世界に発信するために、『国際ジャーナル「一神教学際研究」』を英語、アラビア語、日本語で年1回発行します。今年の秋には、聖職者間の相互理解を図る「三宗教聖職者交流会」も開

催する予定です。

それとともに同センターでは、後期課程の大学院生を中心に、文明間対話のプロフェッショナルを養成するための教育を進めています。一神教の研究にはアラビア語、現代ヘブライ語



英語が不可欠ですが、まずその3言語を徹底して教育します。そして各自の研究を発展させるために、研究テーマに関連した地域でフィールドワークを行います。同センターの海外拠点としてマレーシアに設立する「異文化理解・語学研修センター」も大いに活用します。その3言語を習得し、宗教について幅広い知識をもった人は、さまざまな分野での活躍が期待できます。例えば国際機関やNGO、ビジネスの場面でも活躍できると考えています。

活動をはじめて1年。よりきめ細かな研究など課題はいろいろありますが、改善を重ねて文部科学省からの補助金が打ち切られる4年後に、大学として一神教学際研究センターを存続させるべきだと評価されるように成果をあげていきたいですね。研究成果は、webサイトでも発信していきます。ここでは、その時々と世界と宗教の問題についても取り上げていきますので、皆さんもぜひ一度のぞいてみてください。



Doshisha University
同志社大学
一神教学際研究センター
C I S M O R
Center for Interdisciplinary Study of Monotheistic Religions

「一神教学際研究センター」のロゴは、ユダヤ教、キリスト教、イスラームのそれぞれのシンボルである「燭台」「十字架」「新月」を組み合わせており、3つの一神教の共生をイメージしています。

<http://www.cismor.jp/>



田尾氏



宮本選手



片岡選手



宮本氏



杉浦氏



シンポジウムは、佐藤鉄男総合政策科学研究科教授の講演で始まった。テーマは「野球と社会。歴史や社会といった大きな視点から野球をとらえ、球団オーナーである企業の利益だけでなく、野球協約第3条の「社会の文化的公共財となるよう努める」という原点到に返るべきだと強調した。続いて、弁護士伊藤亮介氏が「プロ野球をめぐる最近の法的問題」というテーマで講演。巨人の上原選手との契約交渉でも問題になった代理人制度やテレビゲームで使われる選手の肖像権について語った。

その後、阪神タイガースの片岡篤史選手（93年商学部卒、ヤクルトスワローズの宮本慎也選手（94年商学部卒、野球評論家の田尾安志氏（76年文学部卒）、日本生命野球部コーチの杉浦正則氏（91年商学部卒、横浜ベイスターズ・スカウトの宮本好宣氏（73年商学部卒）を迎え、横山勝彦法学部教授をコーディネーターにクロストークが行われた。今年はじめて代理人制度を利用する宮本選手は、「代理人に契約交渉を任せることで、その分練習に集中できます」とメリットを語る。査定項目は球団によって50〜100と幅があり、査定基準も複雑。大量点でリードしている際の

スポーツ政策シンポジウム

「日本の野球を考える」 —その法的地位と社会貢献—

日本の野球を取り巻く諸問題について意見を交わす「スポーツ政策シンポジウム」が開催された。総合政策科学研究科と政策学部の共催によるこのシンポジウムには、阪神タイガースの片岡篤史選手など、本学出身の現役プロ野球選手らが参加。会場を埋めた約800人の聴衆は、講演やクロストークに熱心に聞き入っていた。

講演

佐藤鉄男 総合政策科学研究科教授
伊藤亮介氏（TMI総合法律事務所）

パネリスト

宮本好宣氏（横浜ベイスターズ スカウト）
田尾安志氏（野球評論家）
杉浦正則氏（日本生命野球部コーチ）
片岡篤史選手（阪神タイガース）
宮本慎也選手（ヤクルトスワローズ）

コーディネーター

横山勝彦 法学部教授

ほかに、退団選手のセカンドキャリアやプロアマチュア問題が取り上げられた。いまプロ野球選手は平均4〜5年で退団を余儀なくされ、不況の影響で、かつてあった企業からの誘いも減っているという。この状況を打開するためには、リーグのキャリアサポートセンターのような職能訓練や就職支援を行う機関が欠かせない。また退団後、高校野球の監督などになれるように、プロとアマチュアの垣根をもっと低くすべきだという意見も多く出た。さらに杉浦氏からは社会人野球の衰退が伝えられた。最後に横山教授は「不況だから野球を切り捨てるのではなく、野球という、そしてスポーツという文化から日本を元気にしていく逆の発想が求められています」と結んだ。

タイムリーにと接戦のそれでは、評価が違ってくるという宮本（好）氏の発言に、田尾氏は「私が現役だったころの阪神では10点差でも接戦でも1打点が同じ評価。弱いチームでしたと会場の笑いを誘った。導入されて4年目になる代理人制度だが、球団に悪い印象を与えてしまうと、利用をためらう選手も多い。伊藤氏は、選手が自分のプレーをしっかり評価してもらうためにさらなる普及が望まれると語った。

社会貢献についても意見が交わされ、年間安打数に応じた金額を毎年児童養護施設に寄付している片岡選手は、「社会貢献を考えている選手は多い。そのきっかけがなければ」と話す。制度面からも貢献活動を支えるために、寄付金を収入から控除するアメリカのような税制優遇を導入すべきだという意見も聞かれた。

キャンパスニュース Campus NEWS

(2003年12月～2004年3月)

川口順子外相が 今出川キャンパスで講義



昨年10月から、法学部の正規授業として「大使講座―今、世界を語る―」(読売新聞社共催、外務省および文部科学省後援)としてアメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・韓国・インドネシアの6カ国の大使による講義が行われてきた。

今回、大使講座の最後を飾って、日本外交の課題と未来を語ることを中心に、1月17日、川口順子外務大臣を講師として招き「大使講座特別フォーラム―日本外交を語る―」が開かれた。教壇に立った川口外相は、約600人の学生らを前に、大きく変動する国際社会での日本の役割について語った。川口外相は1993年から3年の間、本学大学院法学研究科の非常勤講師を務めており、「今出川キャンパスを懐かしく思います」と講義を始めた。そしてスクリーンに要旨や図を示しながら「冷戦終結後、グローバリゼーションが進んで国際社会が変化する中で、テロの脅威をはじめ様々な問題が起きている」と指摘。「日本は世界第2位の経済大国。もっと積極的に国際社会の秩序づくりに参加すべきである」と語った。イラクの復興支援もその一環だとし、「自衛隊を派遣するのは、自ら身を守り、移動や補給手段を持つ自己完結型の集団として協力できるからである」とその必要性を語った。

川口外相はまた、日米同盟と国際協調の両立の重要性を述べた。「日米が互いに頼れるパートナーとして切磋琢磨していくことが大切」とした上で、「ただ米国だけで世界の問題を解決するのは不可能。国際社会が、米国を含む形で取り組めば大きな成果が期待できる」との考えを示した。さらに国際協調には国連の役割が重要だとし、安全保障理事会の強化を含めた国連改革の実現と日本の常任理事国入りへの意欲を表した。

講義後には学生たちとの質疑応答が行われた。「経済発展の著しい中国へのODAを続けるのか」という質問に、外相は「案件を一つ一つ審査し、そのほとんどが円借款として返済されているので問題はない」と答え、またその他



北東アジアにおける安全保障、北朝鮮問題、イラクにおける劣化ウラン弾の影響など様々な質問が出された。それらの質問に川口外相は丁寧に答えるとともに、最後に「外交問題は決して遠い問題ではなく、みなさんの生活に深く関わっている。今日の話が外交に関心を持つきっかけになればうれしい」と締めくくり、学生からの大きな拍手を受けた。

産業関係学専攻学生だけの サッカーサークル発足!

サッカーサークル「サンチェスター」。そのメンバーにはサッカー好きというほかに、文学部社会科学科産業関係学



専攻の学生という共通点がある。このサークルは、同専攻の学生だけで昨年2月に立ち上げられた学内ではめずらしい任意団体だ。

立ち上げのきっかけは、同専攻の新歓合宿だったという。「そこで知り合った友人たちがサッカー好きなのもあり、その後も集まって交流しているうちに、いつそサークルとして活動しようという話になった」と中心メンバーの阿部さんは語る。中学校・高校とサッカーに打ち込んできた阿さんは、入学後「自分たちが楽しめるサッカーをしたい」という思いもあって同サークルを立ち上げたそうだ。

現在、メンバーは14人（市村祐人、梅本佳雅、浦谷悠紀、江部寿、阿部加藤太郎、近藤亮介、赤土友洋、中瀬朗人、西田雄一郎、沼口正幸、濱口裕樹、藤井彰文、森川勲。全員が2年次生で、中には体育会アイスホッケー部にも所属し、両方の練習に参加する強者もいるそうだ。阿さんは「練習は週に一度、サッカー一筋のサークルというわけではありませんが、その分堅苦しくなく、強制もないし、自分たちの意志で主体的にできるのが楽しいですね。講義に関する情報交換の場としても役立っていますし。まだまだ技術的には課題がありますが、できるだけ多くの大会に出場することが今の目標です」と笑顔で語ってくれた。

初めての「法科大学院」入試を実施



2004年4月開設の法科大学院（正式には司法研究科法務専攻）は、冬、初めての入試を実施。1447人の志願者を集め、234人の合格者を決定した。

第一次審査は「書類選考」で、従来の大学院入試とは異なり、志望理由書、自己アピールシート、職務経歴書（社会人）、大学での成績証明書、適性試験の成績証明書、語学や各種資格の証明書などを審査対象とした。このため約20人の教員を総動員し、10日間休みなしで膨大な量の書類を審査した。審査は大学の成績の優・良・可を全てカウントして評価するほか、各種資格のきめ細かな点数化や、外国の大学出身者を

日本のどの大学と同等に扱うかを決定するなどきわめて複雑な算出方式がとられた。なかでも評価が難しかったのは職務経歴書の採点や各種語学能力資格間のバランスの取り方であった。これらはコンピュータを駆使しての甚大な作業が必要とされ、事務室の方々の深夜までの献身的な助力により審査を完遂。12月24日に707人の第一次審査合格者を決定した。

この結果を受け、2004年1月10・11日の両日、新町校舎で第二次審査を実施。法学既修者（2年コースは憲法・民法など六法科目の論述試験と面接（基本的な法律問題に関するスクリプトディスカッション方式で計7000点満点。法学未修者（3年コースは小論文2つと法学既修者と同じ方式の面接（法律以外の課題で計3000点満点。答案は2人の教員による採点の平均をとり、面接は3人の教員によるチームで行った。1月28日の発表にむけ教員・職員とも約2週間、休日返上で審査。大学院入試としてはかつて本学が経験したことがない大規模なものになった。

合格者は法学既修者150人（定員の目安は100人）、法学未修者84人（同50人）の計234人。このほかに若干の追加合格予定者（合格の保証はない）を決め、該当者に通知した。

総得点による「徹底的公平」を合格判定基準とした結果、合格者の分布は以下のようなになった。

●同志社大学出身者（全学部）27.4%

- 社会人（大学卒業後3年以上）38%
- 男女比 男62%・女38%
- 年齢構成 満21歳〜53歳
- 大学3年次からの「飛び入学」：同志社大学を含む3大学から各1人

合格者の受け入れ体制として、本学では入試成績上位者（法学未修者8人、法学既修者16人）に対し、奨学金（授業料相当額もしくはその半額を支給している。それ以外の学生も希望者は、全員授業料相当額を限度とした貸与の奨学金（無利息）が受けられる。多くの同志社大学の学生が2005年度の法科大学院入試に果敢に挑み、法曹への夢を実現してくれることを心から期待している。

卒業生の新刊図書

『新島襄とその高弟たち』

——時代に挑んだ6人の実像——

志村和次郎さん 1961年法学部卒業
上毛新聞社 14000円（税別）

『神戸のハイカラ建築』

むかしの絵葉書から』

石戸信也さん 1981年文学部卒業
神戸新聞総合出版センター 15000円（税別）

『梅内美華子歌集 火太郎』

梅内美華子さん 1993年文学部卒業
雁書館 27000円（税別）

春学期奨学生募集と 延納分納

■2004年度春学期奨学生募集

【学部】日本学生支援機構奨学金

(旧日本育英会)

◎出願期間※(継続者は出願不要)

【京田辺】

2年次生以上
4月8日(木)・9日(金)

1年次生

4月19日(月)・20日(火)

【今出川】4月14日(水)・15日(木)

【学部】民間団体奨学金(志望登録団体)

◎出願期間

【京田辺・今出川】

2年次生以上

3月25日(木)・4月6日(火)

1年次生

4月2日(金)・6日(火)

(日曜は除く)

【大学院】同志社大学大学院奨学金

日本学生支援機構大学院奨学金

◎出願期間

【京田辺】4月8日(木)・9日(金)

【今出川】4月14日(水)・15日(木)

※3月19日から「奨学金出願のしおり」

を厚生課奨学係で配布しています。

■春学期学費延納・分納

◎手続き期間 4月1日(木)・28日(水)

※厚生課奨学係で受け付けます。学

生証と印鑑を持参してください。

※期間内に学費を納入できない人は

必ず手続きをしてください。

日本学生支援機構奨学金

緊急・応急採用について

失職、破産、会社の倒産、病氣、死

亡等または火災、風水害等による家

計急変により経済的困難が継続する

と見込まれる人は緊急(第一種・応

急(第二種)採用の対象となります。

ただし、申請はその事由が発生した時

から一年以内に限ります。2003年

度は36人(2004年2月現在)が採

用されました。

寒梅館のレストラン2店 がオープン!

室町キャンパス寒梅館1階にカフェ

レストラン「Hamac de Paradis 寒梅

館」アークドパラディ かんばいか

ん」が、7階にスカイレストラン

「SECOND HOUSE」セカンドハウ

スウィル」がオープンします。営業

時間は2店とも11時~23時で原則無

休の予定。昼食時はランチメニュー、午

後は喫茶、夜は本格的なレストランと

して営業します。また、学生会やゼミ等

のパーティー会場としても利用いた

できます。

なお京田辺校地の食堂「キャプテン

クック」の店舗名を、オムニバスに変更

します。

本学教員の新聞 (総合情報センター調べ)

アメリカ研究入門 第3版

森孝一 東京大学出版会 2800円

国際ビジネスコミュニケーションの研究

亀田尚己 文真堂 3000円

東海学と日本文化

森浩二編 五月書房 2800円

叢書・比較教育社会史

身体と医療の教育社会史

望田幸男他 昭和堂 3800円

ルンメル原価計算論研究

西田芳次郎 同文館出版 3300円

ナボコフ伝(上・下)

諫早勇一訳 みすず書房 各7000円

イタリアルネツサンス事典

清瀬文子校閲 石塚尚武監修 東信堂 7800円

契約解釈の限界と不明確事項解釈準則

上田誠一郎 日本評論社 4800円

古代近畿と物流の考古学

辰巳和弘 学生社 8000円

環境と心性の文化史(上)

辰巳和弘 勉誠社 6000円

報道加害の現場を歩く

浅野健一 社会評論社 2300円

民友社とその時代

思想・文学・ジャーナリズム集団の軌跡

西田毅他 ミネルヴァ書房 7000円

近松門左衛門 三百五十年

神谷勝広 山田和人 和泉書院 1800円

世界最新有価証券法理解釈の研究

手塚尚男 悠々社 4500円

天神信仰編年史料集成

平安時代・鎌倉時代前期篇

竹居明男 編著 国書刊行会 15000円

山野河海の列島史

森浩一 朝日新聞社 11000円

KAWAMATA川俣正

アーティストの個人的公共事業

岡林 洋編著 美術出版社 2300円

労働法概説I 雇用関係法

土田通夫 弘文堂 2800円

中国現代文学の系譜

革命と通俗をめぐって

阪口直樹 東方書店 5000円

社会国家の生成

20世紀社会とナチズム

川越 修 岩波書店 3400円

新大会館の 名称は「寒梅館」



京都府立医科大学と 学術交流協定

本学は総合大学として医学・

医療と連携する理工・人文・社会

での教育・研究の充実が必要であ

るとの考えから、2003年12月

24日に京都府立医科大学との学

術交流協定に関する包括協定を

締結した。これにより、両大学の

連携のもとに研究教育資源を積

極的に活用した大学間での先端

的な研究交流を推進することを

めざしている。

成績評価に GPA制度を 導入します

本学では、大学教育の国際的競争環境に関する教員と学生双方の自覚を高め、GPAを核とした的確な履修指導や学習支援システムを充実させることにより、学生の自立的な自己教育を支援し、本学の教育を質的に一層向上させることを目的として、2004年度から全学的にGPA制度を導入します。GPA制度は、大学教育における成績評価制度のグローバルスタンダードとして、現在、国際的にも認知度の高い制度で、日本の大学においても、標準的成績評価制度として近年急速に普及しつつあります。

GPA制度の概要

本学に導入するGPA制度は、各科

判定基準

〈学部〉(大学院は別途)

評価	評点	判定内容
A	4.0	特に優れた成績を示した(100点法では90点以上に対応)
B	3.0	優れた成績を示した(80~89点に対応)
C	2.0	妥当と認められる成績を示した(70~79点に対応)
D	1.0	合格と認められる最低限の成績を示した(60~69点に対応)
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった(59点以下に対応)

GPA算出方法

〈学部〉(大学院は別途)

$$(\text{A} \times 4.0 + \text{B} \times 3.0 + \text{C} \times 2.0 + \text{D} \times 1.0 + \text{F} \times 0.0) / (\text{A} + \text{B} + \text{C} + \text{D} + \text{F})$$

注: A~FはA~Fの評価が付いた科目の単位数の合計

目の成績評価を以下の判定基準にしたがい、5段階(A、B、C、D、E)で評価し、各成績評価段階に40~0.0の評点(Grade Point)を付与して、1単位あたりの評点平均値(Grade Point Average)を算出する制度です。ただし、大学院科目は7段階(A⁺、A、B⁺、B、C⁺、C、E)で評価し、評点は45~0.0とします。

GPAは、不合格を意味するF評価の成績も含めて以下の計算式で算出しますが、F評価であった科目を再履修してD(大学院の場合C)以上の評価を得た場合、最後に付いたF評価は新たな評価に書き換えられて算出されます。

成績原簿、成績通知書には履修した全ての科目の評価とGPAが記載され、成績証明書には不合格科目を除く履修した全ての科目の評価とGPAが記載されることになります。

GPA制度に基づく成績評価方法は、学部・大学院とも2004年度生から適用しますので、2003年度生以前の在学生については、現行の成績評価制度を原則として継続適用します。ただし、従来試験を受けなかった、あるいは放棄した場合に成績通知書に記載されていた「-」という評価は廃止され、すべて59点(大学院は69点)以下の点数が記載されることになります。

科目登録日程の変更、登録取消制度

新しい成績評価制度では、学生は自分の成績をより真剣に考えなければならなくなりますので、授業開始後1カ月程度授業を受講し、望ましい評価が得られないと判断した科目については、定められた期間中に、一定の条件のもとに、登録科目の取り消しを認めます。また、この登録取消制度の設置に伴い、従来授業開始1週間後に行っていた科目登録を全て授業開始前に完了するよう、科目登録日程を改めます。なお、登録取消制度や科目登録日程の変更は在

学生にも適用されます。

クレーム・コミッティ制度 追試験制度

以上のように、厳格な成績評価制度を導入することになりますが、大学は学生により質の高い教育を提供していかなければなりません。このため、例えば、秋学期から、授業クラスごとの評点の平均値や分布を公表することになりました。また、大学が学生からの授業内容・授業方法に関する改善の要望や、成績評価に関する質問や異議申し立てを受け付け、調査し回答するために、クレーム・コミッティ制度を設けます。さらに、学生に試験を受ける権利を保障するために、追試験制度を見直しました。具体的には、全ての学生について、定期試験または学部教授会が認める臨時試験を病気またはやむを得ない事由のために受験できなかった場合は、追試験の申請を行うことができるとなります。

GPA制度および関連する諸制度の詳細については、履修要項、登録要領、学生便覧、学内掲示に掲載されていますので、よく読んで間違いのないようにしてください。

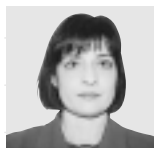
新任教員紹介

●今年度4月1日から新たに79人の先生方をお迎えします。①所属(学科) ②職名③主な担当科目※(一)は専攻



本井 康博

- (かわい・やすひろ)
①神(神)
②教授
③キリスト教史



**Ada Taggar
COHEN**

- (タダ・タガー・コヘン)
①神(神)
②助教授
③ヘブライ語



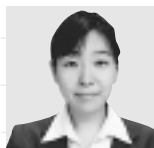
白川 恵子

- (しろかわ・けいこ)
①文(英文)
②専任講師
③英米文学研究



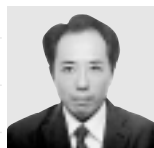
越水 雄二

- (こしみず・ゆうじ)
①文(文化)
②助教授
③西洋教育文化史



西川 貴子

- (にしかわ・あつこ)
①文(文化)
②専任講師
③日本文学基礎演習



空閑 浩人

- (くまかい・ひろと)
①文(社会)
②助教授
③ケースワーク



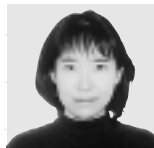
河崎 吉紀

- (かわさき・よしのり)
①文(社会)
②専任講師
③メディア学実習



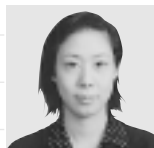
高杉 直

- (たかさぎ・なおし)
①法(法律)
②教授
③国際私法



川和 功子

- (かわわ・のりこ)
①法(法律)
②助教授
③債権法



木下 麻奈子

- (きのした・まなこ)
①法(法律)
②助教授
③法社会学



戒能 通弘

- (かいのう・みちひろ)
①法(法律)
②専任講師
③法学演習



野々村 和喜

- (ののむら・かずよし)
①法(法律)
②助手
③民法



松尾 健一

- (まつお・けんいち)
①法(法律)
②助手
③商法



浅野 亮

- (あさの・りょう)
①法(政治)
②教授
③中国政治論



上田 曜子

- (うえだ・ようこ)
①経済(経済)
②教授
③開発経済



高井 才明

- (たかい・としあき)
①経済(経済)
②助教授
③ITソフトウェア論



福岡 正章

- (ふくおか・まさあき)
①経済(経済)
②専任講師
③アジア経済



程 俊

- (てい・しゅん)
①工(知識工学)
②助教授
③符号理論



則元 京

- (のりもと・まさこ)
①工(機械システム工学)
②教授
③力学I



坂井 克己

- (さかい・こつき)
①工(機能分子工学)
②教授
③高分子物性特論I



加藤 将樹

- (かとう・まさき)
①工(機能分子工学)
②助教授
③無機構造論



古賀 智之

- (こが・ともゆき)
①工(機能分子工学)
②専任講師
③高分子反応論



橋本 雅文

- (はしもと・まさふみ)
①工(情報システムデザイン)
②教授
③メカトロニクス基礎



大久保 雅史

- (おおくほ・まさし)
①工(情報システムデザイン)
②教授
③画像表現



土屋 隆生

- (つちや・たかお)
①工(情報システムデザイン)
②教授
③離散表現



佐藤 健哉

- (さとう・けんや)
①工(情報システムデザイン)
②助教授
③ネットワーク基礎



高橋 和彦

- (たかはし・かずひこ)
①工(情報システムデザイン)
②助教授
③情報制御工学



盛満 正嗣

- ①工（環境システム）
- ②助教授
- ③化学 I

(もりみつ・まさつぐ)



谷川 徹

- ①工（環境システム）
- ②教授
- ③生物学 II

(たにがわ・とおる)



伊藤 晴彦

- ①工（環境システム）
- ②教授
- ③資源・エネルギー学 I

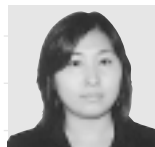
(いとう・やすひこ)



井上 望

- ①工（環境システム）
- ②教授
- ③運動器システム I

(いのうえ・のぞむ)



大崎 美穂

- ①情報システムデザイン
- ②専任講師
- ③情報システム基礎

(おおさき・みほ)



小坂 隆浩

- ①情報システムデザイン
- ②専任講師
- ③計算機工学 II

(こいた・たかひろ)



Ivan TANEV

- ①情報システムデザイン
- ②専任講師
- ③プログラミング III

(イヴァン・タネヴ)



川北 英隆

- ①政策（政策）
- ②教授
- ③資本市場政策

(かわきた・ひでたか)



川口 章

- ①政策（政策）
- ②教授
- ③人的資源管理

(かわぐち・あきら)



今川 晃

- ①政策（政策）
- ②教授
- ③コミュニティ政策

(いまがわ・あきら)



Ofer Feldman

- ①政策（政策）
- ②教授
- ③政治過程論

(オフェル・エルドマン)



阿部 茂行

- ①政策（政策）
- ②教授
- ③開発政策

(あべ・しげゆき)



横尾 頼子

- ①工（環境システム）
- ②専任講師
- ③地球科学 I

(よこお・よりこ)



福岡 浩司

- ①工（環境システム）
- ②助教授
- ③地球科学 II

(ふくま・こうじ)



多田 実

- ①政策（政策）
- ②教授
- ③意思決定論

(ただ・みのる)



太田 肇

- ①政策（政策）
- ②教授
- ③組織経営

(おおた・はじめ)



大島 佳代子

- ①政策（政策）
- ②教授
- ③憲法（統治）

(おおしま・かよこ)



岡本 由美子

- ①政策（政策）
- ②教授
- ③国際経済

(おかもと・ゆみこ)



野間 敏克

- ①政策（政策）
- ②教授
- ③マクロ経済学

(のま・としがこ)



中川 清

- ①政策（政策）
- ②教授
- ③社会保障政策

(なかがわ・きよし)



風間 規男

- ①政策（政策）
- ②教授
- ③政策過程論

(かざま・のりお)



Hans Peter MARUTSCHKE

- ①司法研究科
- ②教授
- ③外国法 II

(ハンス・ペーター・マルツケ)



田中 宏樹

- ①政策（政策）
- ②助教授
- ③政策分析

(たなか・ひろき)



根岸 祥子

- ①政策（政策）
- ②助教授
- ③国際機構

(ねぎし・しょうこ)



久保 真人

- ①政策（政策）
- ②助教授
- ③組織論

(くぼ・まこと)



川上 敏和

- ①政策（政策）
- ②助教授
- ③ミクロ経済学

(かわかみ・としかず)



川井 圭司

- ①政策（政策）
- ②助教授
- ③雇用関係法

(かわい・けいじ)



山谷 清志

- ①政策（政策）
- ②教授
- ③政策評価論

(やまや・きよし)



白井 知史

(つすき・ともひと)
① 司法研究科
② 教授
③ 国際法



占部 裕典

(つらへ・ひろのり)
① 司法研究科
② 教授
③ 公法講義Ⅲ



竹中 勲

(たけなか・いさお)
① 司法研究科
② 教授
③ 公法講義Ⅱ(人権)



奥村 正雄

(おくむら・まさお)
① 司法研究科
② 教授
③ 刑法講義(総論)



前田 達明

(まえだ・たつあき)
① 司法研究科
② 教授
③ 民法講義Ⅱ(不法行為等)



木下 孝治

(きのした・こうじ)
① 司法研究科
② 教授
③ 民事法演習Ⅳ



金子 正史

(かね・まさし)
① 司法研究科
② 教授
③ 公法演習Ⅱ



中田 哲雄

(なかた・てお)
① ビジネス研究科
② 教授
③ 事業創造の理論と実践



村山 裕三

(むらやま・ゆうぞう)
① ビジネス研究科
② 教授
③ 企業の社会的・国際的役割



牧野 孝郎

(まき・たかお)
① ビジネス研究科
② 教授
③ 戦略管理会計



北 寿郎

(きた・としろう)
① ビジネス研究科
② 教授
③ 情報システム論



金子 周平

(かねこ・しゅうへい)
① ビジネス研究科
② 教授
③ コーポレートファイナンス



長谷川 治清

(はせがわ・はるきよ)
① ビジネス研究科
② 教授
③ グローバルマネジメント



土河 太朗

(まつうら・たろう)
① 司法研究科
② 助教授
③ 刑法講義Ⅱ(各論)



脇田 里子

(わきた・りこ)
① 留学生別科
② 専任講師
③ 日本語Ⅳ



三木 メイ

(みき・めい)
① キリスト教文化センター
② 専任講師
③ キリスト教教学



谷 勝宏

(たに・かつひろ)
① 総合政策科学研究科
② 教授
③ 法政策論



佐藤 厚

(さとう・あつし)
① 総合政策科学研究科
② 教授
③ 人的資源管理論



藤原 浩一

(ふじわら・こういち)
① ビジネス研究科
② 助教授
③ 金融工学



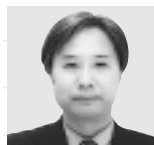
山口 薫

(やまぐち・かおる)
① ビジネス研究科
② 教授
③ 経営システムダイナミクス



白石 健治

(しらい・けんじ)
① ビジネス研究科
② 教授
③ 税務戦略



安川 文朗

(やすかわ・ふみあき)
① 技術・企業・国際競争力研究センター
② 専任フェロー



三好 博昭

(みよし・ひろあき)
① 技術・企業・国際競争力研究センター
② 専任フェロー



村上 征勝

(むらかみ・まさかつ)
① 文化情報学部設置準備室
② 教授

退職教員紹介

●2004年3月31日付で次の先生方が退職されました。

深田 未来生

井上 勝也

坂本 完春

竹内 成明

多田 葉子

Daniel ROSEN

手塚 尚男

川端 保至

西田 芳次郎

長谷部 忠司

小林 真造

丹羽 政三

大田 建久

立脇 徳松

西郷 顯達

榎本 泰子

芳仲 捷

神学部教授

文学部教授

文学部教授

文学部教授

文学部助教授

法学部教授

法学部教授

商学部教授

商学部教授

工学部教授

工学部教授

工学部教授

工学部教授

工学部教授

工学部教授

工学部教授

工学部教授

●渡辺 武男 文学部教授は3月11日にお亡くなりになりました。

思いやりの文化

かつて、高校時代に国語の授業で『相手依存の自己規定』というちせいを読んだ。著者の名前は忘れてしまったが、内容は鮮明に覚えている。その内容は次のようであった。日本語では、一人称の呼び方が無数に存在する。例えば、英語では、基本的に一人称単数は、「I」だけであるが、日本語では「私は」「僕は」「おれは」「小生は」など、簡単にいくつもの呼び方を思いつく。それだけではない。父親は子どもに対して「お父さんはね」と呼びかけるし、教師は学生に対して「先生は」と話をする。反対に、息子は父親に対して「僕は」のおもちゃを買ってほしい」と言うことはあっても、「息子はちやうと話を聞いてほしいんだ」と呼びかけることはないし、学生は教師に向かって「私は」「思います」と発言することはあっても、「学生はレポートを書きました」と話しかけることはない。

これらの違いは、どのように区別されているのだろうか。それは、自分と話し相手との立場の違いによって、無意識のうちに区別されているのである。目上の立場にある者、すなわち、相手を守るべき立場にある者は、相手に対して自分の立場を明らかにするということになされているのである。これは、悪い意味では人間の存在に上下の差をつけていると解釈できるかもしれないが、著者は、この区別こそ

が上に立つものが示す思いやりなのであるとしている。ここで主張されていることは、日本語において、自己を規定する基準が話し相手にあるという点であるが、それよりも重要なことは、それが無意識になされているという点であろうと思う。すなわち、これらのことが自然に行われるということとは、日本語という言語を用いる私たちにとって「文化」となっているという点である。

最近私たちは「勝ち組」という言葉をよく耳にする。テレビや雑誌などでも「勝ち組」になるための方法をまことしやかに解説しているものがある。たしかに、他人よりも多くの所得を得られる仕事に就くことや、欲しいものを何でも手に入れられるようになることはひとつの幸せの形かもしれない。このような考え方は、アメリカ的な個人主義にとつてひとつの価値観として形成されている。しかし、私は個人主義を「自分のことだけを考えていけばよい」というように解釈すべきではないと考える。そして、当然、そのために相手を出し抜くことや、相手を貶めることが正当化されて良いわけではない。なぜなら、私たちは、常に相手の立場を考えながら行動するという「文化」を持っているからである。

皆さんは、大学生活を通して、少しずつ成長している。自分がどのように生きていくかにつ

いて深く考えるには、大学生活はまたとないチャンスであろう。また、私自身もまだまだ成長途上にあると思うている。その中で、自分の進路を見据えるときに、少し立ち止まって周りの人たちのことに思いをめぐらすことが必要なのではないだろうか。いや、私たちは相手を思いやる「文化」を持っている。自然に人と接すれば、相手を尊重し、思いやることができるのかもしれない。



経済学部専任講師

角井 正幸

Masayuki Tsunoi

1971年大阪市生まれ。

1994年同志社大学経済学部卒。

同志社大学経済学部助手を経て2002年から専任講師。

専門は数量分析を中心とするアメリカ農業発展史。

代表取締役社長

KTC(京都機械工具株式会社)

宇城邦英さんに聞く



渡邊 ●私は、学術団機械研究会を中心としたメンバー約20人で「同志社大学フォーミュラプロジェクト」という活動をしています。自分たちで競技用自動車を設計・製作して、全日本学生フォーミュラ大会に出場します。車両性能だけでなく、コスト性やメンテナンスの容易さ、乗り手にとつての快適さ、市場性などの製品としての性能も問われるものです。自分たちが作った自動車が走る姿には感動します。自動車好きにとつて御社のトップブランド「ネプロス」は憧れです。また工具事業以外に環境問題にも取り組んでおられると伺いました。

宇城 ●現在、会社の方向性を変えていくようにしているところで、今後は大きく3つの事業で構成しようと考えています。工具事業、樹脂を利用した金型製作や成形などのハイテク事業、そして環境事業です。人間の手の延長である工具事業は創業以来の当社の柱であり、今後も中心となる重要な事業です。ハイテク事業は、金属だけでなく様々な素材を形づくっていく面白さがあり、また新しい素材も出てきているので挑戦のしがいがあります。そして環境事業ですが、これは個人的な経験がきっかけなのです。私は10数年前に健康をひどく害しました。その時、西洋医学

うしろ くにふさ
宇城 邦英さん
【1975年商学部卒業】

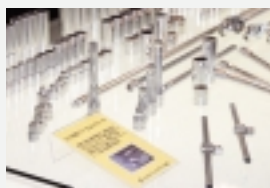
アイテム数・生産量ともに国内最大の工具メーカー、KTC(京都機械工具株式会社)代表取締役社長。同社のトップブランド「ネプロス」など整備用工具約3000点を展示したショールームと開発・設計オフィスを兼ねた「KTCものづくり技術館」を2003年4月1日に京都府久御山町にオープン。当館は第16回「日経ニューオフィス賞」ニューオフィス推進賞・経済産業大臣賞を受賞した。趣味は山歩き、バードウォッチング。



に頼るだけでなく、自らの治癒能力を高めたいといけないと思ひ、人体に影響を及ぼす環境問題に関心を持ちました。現在のまま経済活動を進めていって、私たちの世代までなら平気かもしれませんが、渡邊さんの世代や子供たちの世代が将来も生きていける状態が続くのかどうかを真剣に考えたのです。そこで、できることから少しずつ始めました。例えば、なるべくゴミは出さず、出た生ゴミはたい肥化して土に返す。会社としても何かできないかかと考えて取り組み始めた技術のひとつが、エマルジョン燃料製造装置です。

渡邊 ●発生する有害物質を削減すると注目されていますね。

宇城 ●内燃機関やボイラーなどにエマルジョン化した燃料を使用することで、排出されるガスがクリーンになります。とくにディーゼル機関では大きな効果を得られます。この燃焼システムは既存の装置にそのまま導入できま



す。私たちは社会との関わりの中で存在するのですから、社会に対してできる範囲で提言をしていかなければなりません。私はこの装置を広めることで地球環境に貢献したいと考えているのです。

渡邊 ● 先ほど「KTC」ものづくり技術館の館内を案内していただきましたが、「屋上ガーデン」も環境への取り組みなのですね。

宇城 ● 屋上の緑化には、遮熱による省エネ効果、建物自体を酸性雨や紫外線から保護する効果、ヒートアイランド現象の抑制などいろいろな効果があります。また、取引先の方や社員同士のコミュニケーションの場としても機能しています。屋上ガーデンは54.5㎡というわずかな面積なのですが、この緑地が地球温暖化防止にどう寄与するかということよりも、来館者にまず関心を持っていただいて、自分達も緑化活動を始めるという気持ちになっただけならと思っています。この活動を点から線へ線から面へとつなげていきたいと考えています。社会貢献で始めた活動が結果として事業化できれば、おもしろいかなと思います。

渡邊 ● 1階のショールームでは、創業以来の技術力の高さがわかるように趣向を凝らして展示しており、興味深く見学できました。

宇城 ● 昭和25年の創業からトヨタ自動車様



に車載工具を提供していました。当時はトヨタ様でもまだ年間約500台しか生産していなかったのですが、自動車産業にいち早く目をつけたおかげで、その後の千タリゼーションと同時に当社も規模を拡大していきました。2001年には、自動車レースの最高峰であるF1に参戦するトヨタF1チームとテクニカルパートナー契約を締結しました。今

期で3シーズン目になります。契約前、トヨタチームは別メーカーの工具を使用していました。が、「とりあえずネプロスを一度試してみたい」と技術者のもとへ直接持ち込んだところ、「このような工具を探していた。素晴らしい」と返事がすぐに来て、契約に至りました。プロフASHONALは、工具に対する要求のレベルが違います。彼らの意見を探り入れ、また彼らと協力して開発することで得られた様々なノウハウを、市販工具の開発設計にフィードバックしています。究極の目標は、プロをも唸らせる工具づくりなのです。

渡邊 ● 「ものづくりの原点」という鍛造ハンマーの展示やオフィスの設計方法など、館内には宇城社長を始め社員の方々のこだわりが随所に見受けられました。

宇城 ● 創業以来の50年間の歴史が分かるように、また私たちが将来へ向けての50年間になす

べき事業を実現化する指針となるような施設をつくりたかったのです。



企画段階で社内45のプロジェクトを発足させ、延べ100人以上の社員がアイデアを出しました。「やるんだら」といって、一番をめぐるところの姿勢を持つことが仕事の面白さにつながります。前進した時の喜びや充実感、達成感も増していきます。これを追求する姿勢が「こだわり」だと思います。完成までに多くの意見を戦わせてきましたが、マーケティングオフィスも入った建物は、結果として「日経「ユー」オフィス賞(快適機能)的なオフィスに与えられる賞」「ユーオフィス推進賞の最優秀賞である経済産業大臣賞を獲得しました。その喜びは本当に大きかったです。全従業員の自信にもなりました。

渡邊 ● 企業風土にも良い影響を与えていることですね。

宇城 ● そういふことです。さまざまな活動の中で喜びを共有し、さらに大きな喜びを共有するためにどう活動するのか。こだわりの持った人がどんどん集まってくる、相乗効果を生むようになれば面白い企業になると思います。

私たちは「ものづくり」にこだわっています。しかも、本当に必要とされるものにこだわった企業活動を行いたいと考えています。そのためには、この「ものづくり技術館」来館者をはじめ多くの方々と情報交換しながら、私たち

KTC (京都機械工具株式会社) 代表取締役社長 宇城邦英さんに聞く



「このあたり」を形にしていきたいのです。形にしたものに対して意見をいただき、それをまた形にする。この活動をスパイラルアップする場をつくるのが経営者の役割だと思っています。渡邊●ところで、学生時代はどのように過ごされていたのですか。

宇城●同志社学生放送局で活動していました。学生運動が盛んな時代で、私たち部員もよく議論をしました。入部当初、私自身は政治問題に対して興味はあったのですが、知識がありませんでした。自分自身の考えや、考えに基づいた意見をきちんと言うことができないと、先輩方から「お前は何を考えてるんや」と怒られるのです。真剣な議論がなされる中、末席に加わりながら分からないなりに考えを模索していました。最初は難しかったのですが、全国から同志社大学に集まった先輩や友人たちといういろいろな議論を重ねることができたのは、良い経験でした。自分の考えで話をする、行動することが身に付きました。社員にも「自分の考えで、自分の言葉で話をしよう」と呼びかけています。

渡邊●最後に、宇城社長の後輩にあたる現役の学生へのメッセージをいただけますか。宇城●渡邊さんもそうですが、真面目に物事に取り組みもうとしている学生さんが増えてきているのはうれしいことです。その取り組みを、深く掘り下げていってもらいたいと思います。もし対象が見つからない場合でも、目の前にあることで構わないので、少しでもやってみたいと思ったことをまず実行に移してみる。そして、納得がいくまで頑張ること。これが重要だと思います。そして先ほども申しましたように、できれば自分の考

えに基づいて考えながら実行していく。これは、非常に面白い作業です。もちろん、人はすべてのことを独りではなしえないわけですから、その過程で社会との関わりを学ぶことができます。これは学業にも、スポーツにも、趣味にも言えることだと思います。また、学生時代にできるだけ多くの知識を得てほしいですね。知識には、書物から得るものと、人と関わりあう中で得るものの2種類がありますが、大学という環境を有効に利用して、先生方や友人から多くの知識を得ることに集中すべきではないでしょうか。知識をしかりと身に付けてから社会に出ると、かならずその知識を生かすことができます。一方で、日本の将来について不安に思うこともあります。小学校の給食時間、児童に「いただきます」と言わせた教師に対して、給食費を払っているのだからその必要はないと怒った父母がいると聞きました。価値判断の基準がお金だけになってしまっているのは、悲しいことです。感謝の心や礼儀といった、大事にしたい日本の感性が失われていきつつあるような気がするのです。皆さんには、金銭的な充足感だけではなく精神的な充足感を味わえる人物に育ってほしいと思います。渡邊●わかりました。本日はお忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。

KTCものづくり技術館



KTCものづくり技術館は入館無料。開館時間は午前9時～午後5時。土・日曜、祝日など休館。来館に際しては事前予約が必要。(TEL: 0774-46-3959)

ものづくり/お客様センターまで

INTERVIEWER



わたなべ やすと
渡邊 康人さん

【工学部エネルギー機械工学科2年次生】

同志社大学フォーミュラプロジェクトのメンバーとして、ブレーキシステムの開発・設計を担当。昨年度の全日本学生フォーミュラ大会で、学部生主体のチームながら燃費部門の「小野測器省エネ賞」3位という好成績を収めた。現在は次の大会へ参戦するために車両製作を進めている。

「ものづくり」に対する 熱い思いを感じ取ることができました。

「KTCものづくり技術館」を宇城社長自ら案内していただきました。正面入口のデザインや館内の階段のサイズ、またオフィスの机の配置やパーティションの寸法など細かなところまで配慮が行き届いていることに感銘を受けました。また、久御山工場内の各施設も見学させていただくことができたのですが、従業員の方にもていねいに説明いただきました。私たちのフォーミュラカーにも1/1000という精度が要求されます。しかし、わずかな誤差を生じさせない、妥協を一切許さない「ものづくり」に対する姿勢と熱意が伝わってきて、私たちも見習わなければならないと感じました。

また宇城社長には、私たち同志社大学フォーミュラプロジェクトの活動内容に興味を持っていただけて感謝しています。

日本酒にこだわり客を呼ぶ



日本酒は苦手だ。そう思っている人は一度「鵜飼商店」を訪ねてみてはどうだろうか。町家がいまも残る大宮通商店街。その中ほどに全国各地の「吟醸」や「大吟醸」、「古酒」などの銘酒がずらりと並ぶ酒店がある。店

主の鵜飼裕朗さんは、「ここにある日本酒は、醸造アルコールを混ぜていない米と米麴だけで作られた純米酒ばかり。自分の舌で確かめて、味と値段に納得したものだけを置いています」。蔵元にもよく足を運ぶこだわりようだ。これらの酒は、エアコンで温度管理された酒庫で大切に保存されている。そんな酒に対する熱心な姿勢が、顧客の心を引きつけてやまない。

「もうけは少ないですが、お客さんに喜んでもらえれば」とうれしそうに語る鵜飼さんだが、大学を卒業して店を継いだ当初は、仕事で苦痛だったそうだ。「仕事よりもアフターファイブが楽しければいいと考えていた。それが30歳の時、尊敬する人から「仕事を楽しし

くなければ人生は面白くない」と言われた。その言葉が心に響いた。鵜飼さんは「売る気がないのは自分がおかしいと思わないものまで売っていたから。これからは自信をもってお客さんに勧められるものしか扱わない」と決め、仕入れ先を絞って先代が力を入れ始めていた純米酒により特化するようになった。

現在、店で販売する日本酒はおよそ500品目。九州産の焼酎や国産のビール、昔ながらの手造り調味料を含めると700品目にのぼる。他店ではなかなか手に入らない品も多い。その少量多品種の品ぞろえは、他店にはない大きな魅力になっている。

「こつこつと商品を増やすにつれ、毎日繰る

大学ノートの冊数も増えた。対面販売で詳しく説明できるようにいつも酒に関する知識や情報を書き付けている。店舗の2階で年に数回行う日本酒の試飲会でも色や香りのどこしを楽しんでもらいながら、詳しい説明を加える。ほぼ毎月刷っている各地の蔵元を紹介した手書きの訪問記も一冊の本を出せる厚みになった。「若い人こそもっと本物の日本酒に出会ってほしい」といつも思う。酒文化の担い手。鵜飼さんには、そんな気持ちもある。

3年ほど前からは、一升瓶のリユース活動にも取り組んでいる。上京区や北区の酒店と共同で行っているデポジット制だ。この制度は瓶に瓶代を記入したシールを貼り、お客

さんが空き瓶を持参すれば瓶代を返却する仕組み。瓶は回収業者が買い取り、再使用される。しかし、実際には瓶代を上乗せして販売するのは難しく、値引きで対応しているという。鵜飼さんは「一升瓶以外の大きさや形、色がばらばらの瓶も再使用できるように統一してほしい」と業界全体で取り組み必要性を訴える。

昨年9月の酒類販売の自由化でコンビニや食品宅配業などの参入が相次ぎ、既存の酒店を取り巻く環境は厳しい。時代の波にもまれながらも100年の歴史を持つ鵜飼商店は、そのこだわりで独自の存在感を示し続けている。

Profile

鵜飼 裕朗さん

【1971年 経済学部卒業】

学生時代は古美術研究会に所属

鵜飼商店店主

京都上京小売酒販組合・京都上京酒販協同組合理事長

(株)「鵜飼商店」

京都市上京区大宮通寺之内上ル三丁目

TEL 075-441-3885

FAX 075-441-3870



本場のJAZZに魅せられて ニューヨークに渡る

深尾さんがニューヨークでJAZZを中心にシンガーとして音楽活動を始めて5年、2003年11月9日には、JAZZの老舗とも言える「ブルーノートNY」に出演が叶った。

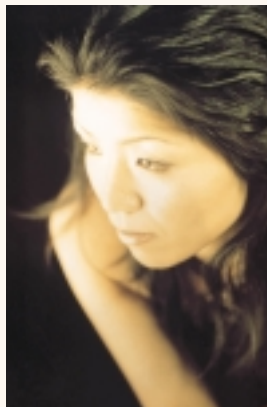
ブルーノートNYでは、毎週日曜日にアジア系JAZZミュージシャンをフィーチャーしており、ニューヨークで長年活躍している日本人ミュージシャンの推薦もあってこのシリーズに出演することになった。深尾さんは日頃はマンハッタン各地のバーやレストラン、カフェなどでJAZZを歌い、ピアノ・ベース・ドラム・サクソ等を含めたバンドで歌ったり、ギターとDUOで演奏することもあるそうだ。「今回は有名ジャ

ズクラブでの演奏という機会を得て、日頃からよく一緒に活動しているピアニスト、ベーシスト、ドラマーと共に演奏しました。2人ともほぼ満席の客入りで、バンドの演奏も素晴らしく、大変よい経験させていただきましたと語る。

深尾さんは大学時代には軽音楽部に所属してR&Bを歌っていた。同志社大学卒業後、1997年秋に司法書士試験に合格したものの、大学時代から好きで歌ってきたR&BやJAZZへの情熱が強く、家族の反対を押しきって渡米。初めてのニューヨークでは様々な音楽体験を積んだ。その後、両親との約束もあって半年でいったんは帰国し、大阪の大手司法

書士事務所に勤務する一方、仕事が終れば夜は大阪、京都、神戸のJAZZクラブで歌う生活を過ごしていた。

しかし、やはり本場の音が忘れられず、とうとう2000年夏に再び渡米を決意。仲間にも恵まれて順調だった司法書士事務所の勤務も辞めた。決して渡米を望んではいない両親や親戚一同に申し訳ない思いは多分にあったが、一度しかない人生に悔いを残さないために、単独でニューヨークに移り住んだ。そしてゼロから始めたニューヨークでの生活、レザや生活上の問題は客易ではなかったが、2003年に入ってようやく、音楽や生活そのものも少しずつ自分



Profile

深尾多恵子さん

【1997年法学部法律学科卒業】

イマ・コンサルティング
(ima consulting, llc.) 勤務
JAZZシンガー

が描いた形になってきたそうだ。近ごろではニューヨーク市内各地のJAZZクラブやバーに地元ミュージシャンとともに多数出演している。米国では、大学時代の修学を生きかした法律事務所勤務などもあったが、2003年からは人事コンサルティング会社採用され、音楽と仕事の両立に多忙な日々を過ごしている。「毎日いろんな出来事があり、9・11その他歴史的な事件もありましたが、数多くの力強いニューヨークの人々と思いを分かち合いながら、目標に向かって貴重な日々を過ごしていますと充実した毎日を本当に楽しんでいる様子だった。



MY LIFE 「仕事」

こんなに話し上手になっていた。
英語でビジネス文書を書いていた。
卒業生を訪ね、仕事に何を求め、仕事を通して
級友の方々にとっては良い近況報告、
生活の現実を考える機会になれば幸いです。

MY JOB
MY LIFE

公認会計士に現役合格の後
日米両国の企業でキャリアを
重ねる。

私の実家は新町校舎のすぐ近くで、幼い頃から同志社を見て育ってきました。女性が仕事を持って自立するためには何が必要かと考え、大学では経済学部を選びました。2年次の時、商売をしていた実家の帳簿付けを手伝い始めたのがきっかけで、帳簿付けから簿記へ、そして3年次には公認会計士資格の勉強へと進んでいきました。朝から晩まで勉強して、4年次の9月に合格を果たしました。合格後は、監査法人に就職し、日米の会計基準に基づく会計監査や企業の上場準備など、短期間でさまざまな経験を積むことができたのですが、若い私が「先生」と呼ばれてしまう環境に居続けると、自分は井の中の蛙になってしまうのではないかと思うようになり、「外に出よう!」と転職を決意。その後、大阪



東京、アメリカで経験を積み、また日本へ帰ってきて現在に至っています。今までに4回転職をしました。これがやりたい!と必死になるのではなく、目の前にきた話にすべて乗ってきた感じです。私は周りの人に恵まれていると感謝しています。今の仕事は、グローバルに事業を展開するGEの個人向け金融サービス会社で、財務情報や報告資料を作成する部署の責任者です。規模の大きな実績数値を管理しているという責任の大きさにやり甲斐を感じます。

私には、男性に負けたくないという意識はありません。男性社会の中で女性としての働きにくさを感じていません。というのは、人と接する際の前提として、男女問わず人の個性はそれぞれ違うものだと考えているからです。勉強だけでなく、絵画や音楽など何らかの個性に一目置くという同志社の校風が、高校、大学を通して身に付いていたからかもしれません。

P R O F I L E

おだわら かな
小田原 加奈 さん

【1988年経済学部卒業】

GEコンシューマー・ファイナンス株式会社
財務部 コントローラシップ
コントローラー

祖父から3代にわたって、家族全員が同志社大学ラグビーのファンという小田原さん。「もし同志社大学に入学できていなくても、ラグビーだけは観続けていたかもしれませんね」と笑う。現在は30人の部下を抱え、日々激務に追われている小田原さんだが、休日には映画鑑賞、マッサージ、アメリカ時代に資格を取ったダイビングなどで鋭気を養っているそうだ。



仕事を通して思うのは、どんなことでも真面目に精一杯取り組めば、自分の血となり肉となるということです。だから、どんなに細かいことでも無駄にならないと思います。また、働くには「強さ」が必要です。物事に動じない強さ、人をエネルギーに動かすことができる強さが大事です。

これから就職するみなさんも、やりたいことはなかなか見つけにくいかもしれませんが、ならば、実際にいろいろな挑戦してみ、自分が本当に楽しいと思うことを見つければよいのではないのでしょうか。真面目にやればどんな経験でも必ず身につくので、一つひとつをおろそかにしないことだと思います。

仕事には人間関係が大きなウェイトを占めますが、より高次の仕事を託されるためには自分が成長していかなければなりません。だから、私は仕事を通して人間的にずっと成長していきたいと思っています。自分が選んだ大好きな仕事ですから。

私が経済学部をめざしたのは、南北の経済格差の解決策を考えたいと思ったからです。高校生の頃、教会の日曜学校で薦められた大養道子さんの著書『人間の大地』でベトナム難民の惨状を知りました。今の社会にこんな悲惨な人々がいるのかと驚き、自分だけが幸せを追求するのではなく、あらゆる人のために活動したいと感じたのです。そこでアイセック（国際経済商学学生協会）に参加し、南北問題と環境問題とを結びつけて解決策を探るプロジェクトを始めました。シンポジウムを開催し、スタディツアーとしてタイ、インドネシアを訪ねました。スラムを訪ねた際、テレビなどで見聞きする「悲惨」なだけの情報とは違い、人々の現実の生活がそこにあるという当たり前の事実が気づかされました。その後もODA（政府開発援助）に関する勉強を続け、JICA（国際協力機構）に就職しました。

MY JOB, MY LIFE

途上国の貧困をなくしたいとの思いで、国際協力の現場に赴く。

シリーズ

第23回

MY JOB, 私と

学生時代、とても無口だったあの人が、
学生時代、英語の苦手だったあの人が、
このシリーズは、毎号それぞれの分野で活躍する
何を考えてきたかを取材しています。
学生諸君には将来のキャリア・プランと学生



CA（国際協力機構）に就職しました。
JICAは途上国のニーズに合わせて、専門知識を持つ人材をコーディネートしつつ、援助事業を行っています。職員には、経済、環境、教育、ジェンダーなど、各自の得意分野だけでなくさまざまな分野の浅くて広い知識と、問題発見の感覚の鋭さが求められます。いわば国際協力のプロデューサーです。
昨年まで私はインドに駐在していました。4人の日本人職員と、約10人の現地職員で、経理・広報・労務管理などをこなしながらプロジェクト協力を進めました。インドの人口は約10億人ですが、1日1ドル以下で暮らす「絶対的貧困ライン」の人口は4億人近くと言われています。貧困層の絶対数としては世界一位です。しかし、GDPで見ると世界12位前後で、欧米の高等教育を受けた裕福なエリート層も多くいます。私たちが日々の業務上でお話をする政府関係者のほとんどは、高い教育を受けたエリート層出身です。彼らは、自国の貧困層に対する認識が希薄な場合が多く、援助を必要とする現場の人々と、こうした姿勢の政府側との調整には苦労しました。現地ではエリート層だけでなくソーシヤル・ワーカー、農業の普及員、医師や看護師など

実務に携わる人々から農民に至るまで、多様な層の人々の声に耳を傾けなければなりません。すべての関係者に納得していただきながらプロジェクトを進めることは難しいですが、この仕事の醍醐味でもあると思います。社会から貧困をなくすことが大きな課題ですが、まずは私たちが支援をしている人々の置かれた環境を一つひとつ改善していくのが当面の目標です。
世界には今なお、貧困問題や紛争、テロなどが起きています。みなさんもこうした問題にまったくの無関心ではいけないだろうと思います。就職して社会に出ると、人生のほとんどの時間を会社で費やすことになりそうです。大学時代に、見聞きしたこと、体験したことをヒントに、自分が社会の中で何ができるのか、また何のために働くのかを考えて、就職活動を進めていくとよいと思います。頑張ってください！ それから、JICAは本当にやりがいのある仕事ですよ。

P R O F I L E

しまだ ごう
島田 剛さん

【1992年経済学部卒業】

独立行政法人国際協力機構（JICA）
人事部人事課勤務



島田さんは4年次生の時、嵯峨野に下宿。「今出川キャンパスまで自転車通学をしていました。途中にある広沢の池の風景が大好きでした」と懐かしそうに語る。現在は東京のJICA本部人事部人事課に勤務するが、マンチェスター大学開発政策経営研究所の後期博士課程で開発経済の研究を続けている。

新入学生歓迎特別講演会

～よろこびを力に…～

【講師】マラソンランナー有森裕子さん(オリンピックメダリスト)
バルセロナ・アトランタ両オリンピックのメダリスト有森裕子さんをお招きします。有森さんの信条は、「世の中にたった一人しかいない自分の生き方にこだわること」「二度とやっこない瞬間瞬間を精一杯生きること」です。新入学生のみなさん、有森さんのポジティブな生き方に触れて、あなたの大学生生活の号砲を鳴らしてみませんか。

【日時】4月23日(金) 13:00～(12:30開場:同志社交響楽団による新入学生歓迎セレモニー)

【場所】多目的ホール(京田辺キャンパス)

【お問い合わせ先】学生課(京田辺)

【TEL】0774-65-7410

ファーストイヤーキャンプ2004

(新入学生対象)申込受付 ※先着順受付

学部を越えた同級生・上級生・教職員とのふれあいを通じて同志社大学を知ることができます。学生生活を送る第一歩にぜひ参加してください。

【日程】4月10日(土)～11日(日)1泊2日

【場所】同志社びわこリトリートセンター

【参加費】5,200円(食費、宿泊費の一部)

【申込期間】4月1日(木)～7日(水)※先着順受付(100人)

【申込先】学生課(両校地)

【お問い合わせ先】学生課(京田辺)

【TEL】0774-65-7410

同志社大学マンドリンクラブ 第144回定期演奏会

【日時】5月29日(土)18:30開演(18:00開場)

【場所】大阪府立青少年会館文化ホール
(JR環状線森の宮駅下車西へ500m)

【曲目】シドニー序曲(本邦初演)/H・ハウマン 他

【入場料】500円

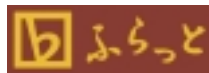
【お問い合わせ先】マンドリンクラブマネージャー

【TEL】090-6678-4170

【URL】<http://www.donet.gr.jp/~smd/>

アルバイト情報の ネットワーク化について

厚生課では学業と両立できる適切・安全なアルバイト紹介をしていますが、この4月から、従来、大学の厚生課掲示板に貼り出していたアルバイト求人インターネット経由でパソコンや携帯電話で閲覧できるようにします。詳細については厚生課掲示板、案内チラシ等をご覧ください。



映画上映/2004(春学期)

【場所】多目的ホール(京田辺キャンパス)

【料金】無料

【時間】毎週水曜日 12:30～ 15:00～

※内容・時間帯は都合により変更となる場合があります。

4月 21日(水) 「バトル・ロワイアルII【鎮魂歌】」

03年日本(深作欣二・健太監督)133分
<1回目 12:00 2回目 15:15>

5月 12日(水) 「座頭市」 03年日本(北野武監督)116分

5月 26日(水) 「北京ヴァイオリン」

02年中国(チェン・カイコー監督)117分

6月 2日(水) 「HERO」

02年香港・中国(チャン・イーモウ監督)99分

6月 9日(水) 「猟奇的な彼女」

01年韓国(クァク・ジェヨン監督)122分

6月 16日(水) 「死ぬまでにしたい10のこと」

02年スペイン・カナダ(イサベル・コヘット監督)106分

6月 23日(水) 「ジョゼと虎と魚たち」 03年日本(犬童一心監督)116分

ホールアート新人募集説明会(京田辺)

【日時】4月17日(土)10:00～/14:00～

4月19日(月)13:30～/16:45～

【場所】多目的ホール(京田辺キャンパス)

※多目的ホールの技術(音響部門・照明部門)、制作(企画運営部門)をサポートしている学生課のアルバイトです。

サマー・ラウンジコンサート in 多目的ホールラウンジ

6月 28日(月)～7月 2日(金) 12:30～のみ(出演学生団体募集中)

【お問い合わせ先】学生課(京田辺) 【TEL】0774-65-7410



WOT(ワット!)

【場所】ハーディーホール(寒梅館1階)

【料金】無料

【時間】毎週木曜日 16:45～ 19:00～

～日本の映画はこんなにもおもしろかった!～

5月 13日(木) 「座頭市」 03年(北野武監督)116分

5月 27日(木) 「黄泉がえり」 03年(塩田明彦監督)126分

6月 3日(木) 「恋愛寫真」 03年(堤幸彦監督)111分

6月 10日(木) 「ドッペルゲンガー」 02年(黒沢清監督)107分

6月 17日(木) 「半落ち」 03年(佐々部清監督)121分

6月 24日(木) 「ジョゼと虎と魚たち」 03年(犬童一心監督)116分

ホールアート新人募集説明会(今出川)

【日時】4月 9日(金)13:30～/16:45～

4月10日(土)10:00～/14:00～

【場所】クローバーホール(寒梅館)

【お問い合わせ先】学生課(今出川)

【TEL】075-251-3270

※寒梅館ハーディーホール・クローバーホールの技術(音響部門・照明部門)、制作(企画運営部門)をサポートしている学生課のアルバイトです。

障がい学生支援スタッフ大募集

アシスタントスタッフ(有償)・ボランティアスタッフ(無償)

障がい学生支援制度説明会

【日時】4月5日(月) 14:00~14:30

【場所】京田辺校地ラウンジ棟207会議室

【日時】4月6日(火) 10:00~10:30

【場所】京田辺校地ラウンジ棟207会議室

【日時】4月6日(火) 14:00~14:30

【場所】今出川校地扶桑館107教室

ノートテイク基礎講習会

【日時】4月5日(月) 14:30~15:30

【場所】京田辺校地ラウンジ棟207会議室

【日時】4月6日(火) 10:30~11:30

【場所】京田辺校地ラウンジ棟207会議室

【日時】4月6日(火) 14:30~15:30

【場所】今出川校地扶桑館107教室

パソコン点訳概要説明会

【日時】4月5日(月) 14:30~15:30

【場所】京田辺校地ラウンジ棟207会議室

【日時】4月6日(火) 14:30~15:30

【場所】今出川校地扶桑館107教室

アシスタントスタッフ(有償)募集

●聴覚障がい学生の講義保障

正課授業のノートテイク、パソコン通訳、手話通訳

※技術を伴う支援ですので、講習会受講等一定条件を満たした後、登録・活動していただきます。

ボランティアスタッフ(無償)募集

●聴覚障がい学生への支援 ビデオ字幕付けなど

●視覚障がい学生への支援 ガイドヘルプ、対面朗読、テキストファイル 文字校正、代筆など

●肢体不自由学生への支援 車椅子介助、代筆など

【お問い合わせ先】学生課(京田辺)

【T E L】0774-65-7410

Neesima Room企画展

新島襄「脱国140年」記念 「函館からボストンへ」展

【期間】2004年4月1日(木)~8月31日(火)

【時間】9:30~17:00(土曜日は16:00まで、日曜日は10:00から、8月の平日は16:00まで)

【会場】Neesima Room(今出川キャンパス ハリス理化学館2階)

【閉室日】祝日、4月29日~5月5日、8月16日~20日、8月の土・日曜日

【入場料】無料

【お問い合わせ先】同志社社史資料室

【T E L】075-251-3042

【E-mail】ji-shasi@mail.doshisha.ac.jp

寒梅館 OPENING PROGRAM

大江健三郎 講演会《新入学生歓迎特別講演会》

【演題】「新しい人」になるために

【日時】4月14日(水) 15:00~

【場所】ハーディーホール(寒梅館1階)

東儀秀樹 コンサート

【日時】5月15日(土) 17:00開場 17:30開演

【場所】ハーディーホール(寒梅館1階)

黒木和雄 講演会+映画上映

【演題】「映画と私」

新作映画「父と暮せば」上映(100分) ① 13:00~ ② 16:45~

【日時】5月20日(木) 15:00~

【場所】ハーディーホール(寒梅館1階)

※いずれも入場無料

※大江健三郎講演会・東儀秀樹コンサートは、入場整理券を配布します。

配布日時・場所については掲示および本学ホームページでお知らせします。

【お問い合わせ先】学生課(今出川)

【T E L】075-251-3270

キャリアセンターからのお知らせ

学生諸君の就職活動支援のため、大阪、東京にオフィスを開設しています。パソコンでの企業情報検索や、情報交換、休息等にぜひご利用ください。「卒業見込証明書」「成績証明書」「健康診断証明書」「学割」の発行をオフィスで受け付けます。

〈大 阪〉

【場所】大阪市北区梅田2丁目1-22

桜橋アストリアビル9階

【T E L】06-4799-3255

【F A X】06-4799-3256

【開室期間】4月~7月

【開室時間】月曜日~土曜日 10:00~18:00

※8月以降の開室期間については随時ホームページ「仕事蔵」でお知らせします。



〈東 京〉

【場 所】東京都千代田区大手町2丁目6番2号

日本ビルディング5階566区

【T E L】03-3516-7577

【F A X】03-3516-7579

【開室日時】月曜日~金曜日 (〜6月)

9:00~20:00

土曜日 9:00~16:00



※7月以降の開室時間については随時ホームページ「仕事蔵」でお知らせします。

【URL】<https://shushoku.doshisha.ac.jp/>

※就職部は4月1日から「キャリアセンター」になりました。

My PURPOSE

挑戦する人

小型ヨットで太平洋単独横断

水平線の向こうへ

昨夏の8月2日、全長8メートル弱のヨット「朋友号」に乗り込み、大阪府田尻町の田尻漁港マリナを後にしました。目的地のサンフランシスコまで11300キロあまり。積み込んだ食料は80日分。大学の仲間やお世話になった人たちに見送られ、不安と期待に胸を膨らませての出航でした。あの水平線の向こうにいつか行ってみよう。父とよくヨットに乗っていた小学生の時にそう思いました。大学入学後、その夢の実現を決断。しかし長距離航海の技術がなく、大学3年次生の春に、単独で世界一周を成し遂げた青木洋さんを訪ねてアドバイスを求めました。返ってきた言葉は「そんなばかなことは止めなさい」。でもそ

れが発信材料となり、青木さんのもとに通い続け、ヨットマンの技術的なことはもとより、心構えなど多くのことを教わりました。太平洋沿岸を北上し、千葉県沖から黒潮に乗って西へ。9月10日には日付変更線を通りました。心地よい風を受け北米大陸をめざすヨットの先には小学生の時に見たのと同じ水平線が広がっていました。航海中は、海が荒れ狂う嵐や風が止む風、機器のトラブルなどの困難も青木さんの言葉を思い出し、何とか乗り越えて一路西へ。イルカがヨットの周りを泳ぐといった楽しい出来事もありました。

航海中は日の出とともに起き、日の入りとともに寝る生活でした。でもなかなか寝られない日も多く、いろいろなことを考えました。私が16歳の時に亡くなった父のこともよく思い出しました。私の心を探る旅。この航海にはそんな思いもありました。

出航して78日目の10月18日、霧が晴れ、目の前に赤色のゴールデンゲートブリッジが現れました。「あれだ。間違いない」、思わず叫んでいました。サンフランシスコ湾のヨットハーバーには青木さんと仲

間の姿と一緒
に、母の笑顔が
ありました。ア
メリカの大地を
踏みしめ、よう
やく着いたんだ
と実感しまし
た。

「このことからいったい何を感じ、今後にどう生かしていくか。これこそが航海以上に重要だと思う」。航海中に綴っていた日誌にそう記しました。現在、私は新聞記者をめざして奮闘中です。専門学校で報道写真、大学では新聞学を学んできました。写真とペン。その両方を使って、世界中で頻発する紛争や、その中で戦禍を乗り越えて懸命に生きる人々の暮らしを伝える。そんな特派員になればと思っています。そして今回、多くのマスコミから取材を受け、取材する側とされる側の人間関係がいかに重要であるかということを痛感しました。記者になってもこの思いを忘れずに多くの人とかわっていききたいと思います。

Profile



友田 享助 さん

【文学部社会科学
新聞学専攻4年次生】

ご意見・ご感想を下記までお寄せ
ください。

E-mail : across_the_pacific@hotmail.com



ゴールデンゲートブリッジを背に